

⑤ 復興を支えた報徳仕法と移民、 そして祈りをささげるまつり

～互助と地域のつながりによる災害からの復興～

■飢饉を乗り越える移民政策

天明^{てんめい}2～8年（1782～88）に大凶作、天明の飢饉^{なかつらはん}が起き、中村藩内では餓死^{がし}する人、逃げ出す人が続出し、3年で約5万3000人の人口が約3万6000人になるほど減少しました。

このため、中村藩では質素儉約に努めるとともに、主に北陸地方から浄土^{じょうど}真宗^{しんしゅう}を信仰する人たちなどの移民受入策を行いました。移民は江戸時代末までの約60年で1万人を超えるほどであり、復興に大きな役割を果たしていきます。

■農村復興を果たす報徳仕法

これらの政策を実施していた天保^{てんぽう}4～7年（1833～36）、天保の飢饉が起き、再び大きな被害がありました。このため、富田高慶^{とみ たかよし}らが中心となり、二宮尊徳^{しんせい}の教えに基づく「至誠」を基本とし「勤勞^{きんろう}」「分度^{ぶんど}」「推讓^{すいじょう}」を実践する報徳仕法により互助と地域のつながりを活かしながら、地域の復興に努めました。報徳仕法では、荒至重^{あらむねしげ}らの測量術^{そりょうじゆつ}を使いながら、鹿島区^{ななせんごくようすい}の七千石用水な

どの用水路やため池造成といった水利事業を行い、農村の生産力を高めました。このような政策により、明治初めには中村藩の人口は、天明の飢饉前の約5万3000人に回復しました。

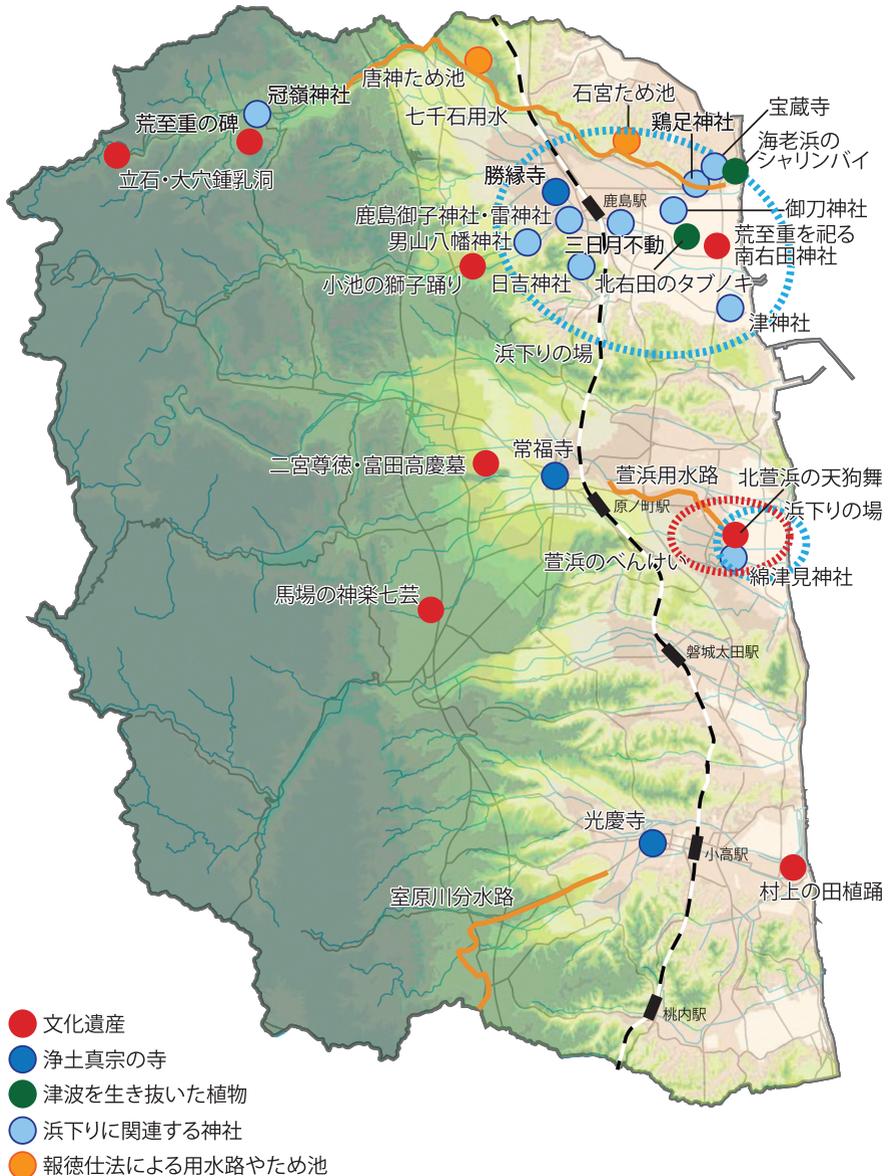
■神仏に祈りを捧げるまつり、踊り

このような様々な災害を経験してきた相馬地方は、豊作などを祈願するまつりに伴う芸能が特に多く伝わっています。中村藩が奨励したとされる獅子^{しし}神楽^{かぐら}のほか、田植踊^{たうえどり}など各地に多様な民俗芸能が見られます。

特に、鹿島区に多く残る浜下^{はまお}り行事は、広く地域一体に神仏^{おんけい}の恩恵が得られることを願った行事で、里から海まで神輿^{みこし}がめぐり、多くの民俗芸能が奉納されます。このようなまつりは東日本大震災後も継続され、多大な被害のあった地域において、住民をつなぐ大切な行事となっています。

このような災害からの復興の歴史を物語る文化遺産は、復興を成し遂げるために必要なことを現代の私たちに教えています。

報徳仕法と移民、祈りをささげるまつりを伝える文化遺産



にのみやそんとく とみた たかよし
原二宮尊徳・富田高慶墓

原町区いしがみの石神生涯学習センター近くに
 あります。報徳仕法を主導した富田
 高慶の墓は、明治23年（1890）に亡く
 なったときに建てられました。二宮尊
 徳の墓は昭和30年（1955）、百年忌を
 記念してにつこう栃木県日光市の報徳二宮神社
 にある墓かたどを模って富田高慶の墓に隣接
 して建てられました。



ほうとくし ほう
小鹿原報徳仕法による用水路・ため池

まの からかみ真野川から唐神ため池、
みなみやかた いしがみや南屋形の石宮ため池などに
 入る用水路であるななせんごく七千石用
 水、報徳仕法最難関なみえの浪江
まち町からむろぼら小高区に至る室原用
 水路、総延長4キロメート
かいほまルにわたる萱浜用水路など、
あらむねしげ荒至重が設計した多くの用
 水路があります。



唐神ため池



七千石用水

たていし おおあなしょうにゅうどう
鹿立石・大穴鍾乳洞

かみとちくぼ まの鹿島区上栃窪の真野川の川岸に立つ
 大きな石を立石と言います。江戸時代
 から景勝地として知られており、かつ
 ては隣接する大穴鍾乳洞あまごで雨乞いが行
 われていました。現在は紅葉の名勝地
 としても知られています。



鹿 津波被害を耐え抜く植物

えびはま
海老浜のマルバシャリンバイは東日本大震災の壊滅的な津波被害を受けましたが、現在は回復しつつあります。



海老浜のマルバシャリンバイ

また、巨木を含む北右田のタブノキ林は津波被災地の旧屋敷林であり、集落があったことを伝えてくれます。



北右田のタブノキ (旧屋敷林)

小鹿原 浄土真宗の寺院

中村藩の奨励策によって、移民してきた浄土真宗を信仰する人々の心のよりどころとなった寺院です。



小 光慶寺
新潟県の光仙寺の西教が阿弥陀如来像を抱え、来村し、建立したとされています。



原 常福寺
創建者の新潟県の光円寺の恵敬は130戸の移民を進めるなど、中村藩の移民政策に貢献しました。



鹿 勝縁寺
富山県の最円寺の廓然が創建者とされます。廓然は5年をかけて、山野4町歩を開墾しました。

原 萱浜のべんけい

浄土真宗移民が伝えたと言われる大根の煮物です。このような浄土真宗移民が伝えた芸能や習俗は、多く相馬地方に定着しています。



小鹿原^{たうえおどり}田植踊

なかむらはん
旧中村藩領の70か所で行われた豊作を祈願する踊りです。山側から海岸に至るにつれて芸能化が進み、洗練されていく傾向があります。

むらかみ
海岸に位置する村上の田植踊（小高区）はもっとも芸能化が進んだものとして知られています。



村上の田植踊

鹿島^{かしまみこ}御子神社の火伏祭・^{てんとうろう}天燈籠

極寒の小正月に行われる神事です。1日目の夜は、火伏せを念じ、鹿島の市街地の家々に水をかけて回ります。2日目の天燈籠は、早朝には「ご祝儀^{しゅうぎ}」と声かけしながら、住民が神職に水をかけて豊作をうらないます。



水をかけられる神職

鹿島^{はまお}区の浜下り行事

ごしんたい みこし
御神体と神輿を海浜に運び、潮水を奉納し、多くの芸能が行われるまつりです。まの
真野川流域の社寺が多く行っており、ほとんどが12年に1度行われま

かしまみこ とら ひよし
す。鹿島御子神社は寅年、日吉神社は
ざる
申年、おとこやまはちまん いぬ
男山八幡神社は戌年に浜下り行事を行います。



潮水を奉納する様子
(日吉神社の浜下り・烏崎)



北海老の宝財踊
(鶏足神社の浜下り・南海老)



烏崎浜での行列
(男山八幡神社の浜下り)

小鹿原 ふるさとに残る民俗芸能



原 北萱浜の天狗舞

天狗と神楽が争うさまが演じられる相馬地方では珍しい芸能です。北陸の芸能と共通点が多く、移民に伴いもたらされたといわれます。



原 馬場の神楽七芸

馬場では各地域では行われなくなりつつある獅子神楽の余芸が継承されています。鳥刺し、おいとこ、鬼踊など多様な芸能があります。



鹿 小池の獅子踊

4名の獅子が17種にも及ぶ舞を踊る獅子舞です。鹿島御子神社の祭礼には不可欠な芸能といわれます。



鹿 下町の子供手踊

鹿島区には各地区に子供が行う手踊が伝えられてきましたが、現在、その多くが途絶えました。下町の子供手踊は精力的な活動を継続し、各行事が奉納されています。



鹿 江垂の宝材踊

南北朝時代の霊山落城の故事に由来し、山伏など異なる姿の7人によって演じられる風流踊です。日吉神社の浜下り行事に欠かせない大事な芸能です。



鹿 川子の田植踊・鳥刺し

川子では神楽に伴う余芸として田植踊とともに鳥刺しが伝えられています。鳥刺しは奴と侍がユーモラスに演じられる踊りです。



鹿 烏崎の子供手踊

烏崎は男山八幡神社・日吉神社などの浜下り行事の浜の祭場となります。その際、妻つき唄などの民謡にのせて子供手踊が演じられています。

小鹿原 獅子神楽

中村藩は福島県内の7割にも及ぶ約180か所で獅子神楽があったとされます。相馬地方では最も親しみのある芸能といえるでしょう。



鹿 江垂の神楽

このように多くの獅子神楽が残されているのは、天明の飢饉などで窮乏していた中村藩が、各郷の雷神社にて豊作を祈願して、神楽を奉納することを奨励したためとも伝えられます。このためか、相馬地方の獅子神楽は、格式高く舞われる特徴があります。



小 浦元の神楽